SEQUIMINI ME

セクイミニメ

No.46

SPRING 2014

桃山学院大学チャペル・ニュース

目　　次

巻頭言「古い革袋から新しい革袋へ」　チャプレン　松平　功 …… 1

桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう‼ …… 2

先輩からの便り ～「神様のことをもっと知ってほしい」
第53期生　立川千晶（たちかわ ち あき）（前SCAサークル部長） …… 3

桃学大SCA（学生キリスト者会）へのお誘いとお願い …… 5

キリスト教センターからのお知らせ …… 6

2013年度チャペルコンサート、クリスマス礼拝献金のご報告 …… 7

聖書の花園（29）「桑 ― 偶像にも信仰の力の譬（たと）えにも」 …… 8
金城　盛紀（本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授）

「SCA 桃祭 2013」　社会学部3回生　佃　昭佳 …… 10

「吉野の日帰り研修で感じたこと」国際教養学部1回生　岸本　耕 …… 12

～オルガン講習・感想文～ …… 13

「一番楽しく演奏できた発表会」　社会学部　1回生　稲垣　由樹

「オルガン講習と私の学びの訪れ」　国際教養学部　2回生　大谷　美里

「オルガンと過ごした3回生の年」　国際教養学部　3回生　中井　綾乃

「達成感と肯定的生き方をくれたパイプオルガン」　法学部　3回生　岡本　道生

「パイプオルガンを通しての体験」　経営学部　4回生　北坂　知沙

聖書の言葉

「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、
この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。」

（新約聖書・新共同訳、ガラテヤの信徒への手紙5章13節）

表紙：日本聖公会 大阪教区
堺聖テモテ教会　礼拝堂ステンドグラス「子どもを祝福するイエス」

「古い革袋から新しい革袋へ」

チャプレン（大学付牧師）　**松平　功**

「だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」
（新約聖書・新共同訳、マルコによる福音書２章22節）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本学はミッション系の大学ですので、皆さんには、聖書の教えから色々なことを感じたり、考えたりしていただきたいと願っています。さて、上記にある新約聖書の言葉ですが、これはイエス・キリストが2000年も前に語ったとされているたとえ話です。当時はブドウ果汁を皮袋に入れて発酵させ、ブドウ酒を作っていました。発酵過程でガスが発生するので、皮袋はパンパンに膨れていきますが、「新しい革袋」はやわらかくてなかなか破れることはありません。しかし、もし「古い革袋」で発酵させると、すぐに破裂してしまうのです。「古い革袋」は、硬くなってしまって膨らまないからです。このたとえ話を通してイエスは、古い因習などにとらわれない新しい生き方の必要性を示唆しています。

大学生になった皆さんにとって、このたとえ話は高校生という「古い革袋」から出て「新しい革袋」である大学において、社会で活躍するための熟成期間を過ごすことと捉えてください。しかしこれは、大学でボーっとするように奨めているわけではありません。高校での受験勉強中心の学生生活ではなく、桃学大において高校では得ることのできなかった何かを求めていただきたいということです。

桃山学院の「建学の精神」は、キリスト教に根差した「自由と愛」の追究にあります。紙面に限りがありますので、ここでは「自由」だけに焦点を当てますが、この「自由」とは、自己中心的な自我の欲求を満たすようなことを意味しません。むしろ、自我の欲求から抜け出すことや、今まで当たり前と思っていたような偏見の束縛から解き放たれる、自由な心を持つことを意味しています。目まぐるしく変化していく国際社会や情報が錯綜するメディア社会を、「古い革袋」的な発想のままでは生き抜いていくことは困難でしょう。皆さんは「新しい革袋」的な、自由な心を持って考え歩んでいただきたいと思います。

この自由な思考から独創性が生まれたり、桃学大生ならではの感性が磨かれたりすると信じます。ただ、その独創性や感性をどのように社会で用いて役立てることができるのかが大切です。つまり、どのような社会に羽ばたきたいかという将来の夢を持たなければなりません。皆さんの中でまだ将来の夢を持っていない人がいるなら、一日も早くそれを見つけていただきたい。そのために桃学大の様々なプログラムを用いることをお勧めします。それらは、長期・短期留学にインドやインドネシアでのボランティアプログラムなど多岐にわたっていますので、自分に合ったものを選んで参加してください。高校時代のように、先生が何か良いプログラムをお勧めしてくれることはありません。大学生は全て自分で自由に探すのです。二度と戻れない大学生活という短い青春の中で、「古い革袋」から出て自由という「新しい革袋」で独創性や感性を磨き、夢を持って社会に出ていく準備をしてください。

最後に、皆さんはミッション系の大学で学ぶ

のですから、キリスト教系の授業を受講したり、チャペルでの活動に参加したりして、キリスト教およびそれを基礎とした考え方などに是非、触れていただきたいと思います。そのような学びの中で、現代社会が求めている何かに気づいたり、自分の歩むべき方向性を見出したりすることができるかもしれません。本学での学びの中で知識の総量を増やしながら、自由な心と思考を持って桃山学院大学の学生として素晴らしい内面的成長を遂げられるように期待しています。

聖歌隊員大募集!!

桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう!!

＋ 聖歌隊って？

◎ 桃学大カラーのガウンを着て、入学式や卒業式で合唱する団体です。
◎ 創立記念日やクリスマスなどの学内行事にでも歌を披露します。
◎ 学外では福祉施設などで歌ったりすることもあります。

＋ 聖歌隊に入ると何か良いことある？

◎ チャペルに附属している聖歌隊なので、部費や活動費などを請求されることはありません。
◎ 部室はキリスト教センター内の広い部屋なので、教室からも比較的近い。
◎ 練習は週に２～３回なので、アルバイトとのかけもちも OK ！
◎ プロのボイストレーナから指導を受けるので、メキメキ上達するかも。
◎ 部室では、自分専用の個人ロッカーが使えるよ。
◎ 聖歌隊や合唱の経験がなくても入れます。

興味のある方は、キリスト教センター内の聖歌隊室に見学に来てね！
ホームページは、桃学大の施設、キリスト教センターから入れます。
http://www.andrew.ac.jp/ch-choir/index.html

先輩からの便り

「神様のことを もっと知ってほしい」

第53期生　立川（たちかわ）　千晶（ちあき）

（前SCAサークル部長）

わたしは

わたしは2011年にSCAの復活をお手伝いし、部長を務めさせて頂きました。そして、2012年に桃山学院大学法学部を卒業しました。卒業後は、イギリスの大学院で国際人権法を学び、現在はNGOでインターシップをしています。そこでは国際人権法に則ってあらゆる人権侵害を食い止める活動をしています。具体的には、危険な状況に追い込まれている人々を保護するよう、政府などの機関に要請する手紙やハガキを書いてもらうために、全国でイベントを開催したり雑誌を発行したりしています。

桃山学院大学在学中、わたしは多くの人々に出会いました。この出会いはイエス・キリストからの贈り物だと思っています。ここでは、わたしがイエス･キリストに出会ったこと、SCA復活の思い出や学生生活に対する思いなどを皆さんに伝えることができればといいなと思います。

イエス・キリストとの出会い

わたしの家族はクリスチャンではありません。日本ではよく見られるように、クリスマスにはクリスマスプレゼントをあげて、お正月には初詣に出かけるような家庭でした。中学生頃までは御経を唱えることもありましたし、写経をしたこともあります。しかし、公立高校の受験を失敗してしまい、桃山学院大学と同じ英国聖公会のプール学院高等学校に進学しました。これが、イエス・キリストとの初めての出会いです。

高校入学後、初めての礼拝で年間聖句を紹介されました。「互いに忍び合い　責めるべきことがあっても　赦し合いなさい。」（コロサイの信徒への手紙3章13節）です。そのあと、「あなたの右の頬を打つなら、左の頬も向けなさい。」（マタイによる福音書5章39節）も紹介されました。昨年の流行語大賞のように“倍返し”ではありませんが、やられたらその分やり返しなさいと幼い頃から教えられていたので、私の中では衝撃的な聖句でした。このように、毎朝の礼拝はそれ以前まで私の心の中でひっかかっていたものが解けていくような気がし、いろいろと深く考えさせられる時間となりました。

桃山学院大学での生活

大学入学時、再び受験に失敗してしまい、それが原因で家族とあまりいい関係を築くことができずに悩んでいました。そのとき、高校のチャプレンが教会にいつでも遊びにおいでとおっしゃってくれたことを思い出して、堺

聖テモテ教会を初めて訪ねました。その頃から、ときどき日曜礼拝に参加するようになりました。

大学二年生になった頃、その教会で現在の桃山学院大学のチャプレンである松平先生にお会いし、大学でも礼拝を行っているということを知りました。そして、授業のある日は大学の礼拝にも参加させて頂きました。今は分かりませんが、当時はお昼の礼拝でも学生の参加者はとても少なかったと記憶しています。

三年生に入る前に、大学の交換留学制度を利用して、テキサスへ半年程語学留学をしました。そこでは、Chi Alpha というクリスチャングループに所属し、毎週友達とバイブルスタディを行ったり、教会へ通ったり、ミッショントリップに出かけたり、集会にも毎週参加したりしました。このグループは学生がほとんどで、韓国・中国を中心とする留学生も多数参加していました。また、全員がクリスチャンというわけではなく、友達がいるからという理由で参加している方も何人かいました。その頃から、日本に戻ったら大学で何人か学生を集めてクリスチャン・アソシエーションを作りたいなと漠然と考えていました。

SCA 復活！

テキサス留学から帰ってきてからも、クリスチャン・アソシエーションを作りたいという思いはありましたが、周りの友達は全く興味がなかったのでほぼ諦めかけていました。そんなとき、松平先生から SCA のことを聞かされました。SCA は桃山学院大学開学当初から文化サークルとして活動していましたが、1996 年頃から活動を休止していました。先生から SCA を復活してみないかと聞かれた時、わたしはすぐにはいと返事しました。でも、そのあとわたしなんかに部長が務まるのかと悩みはじめました。そこで、テキサスで知り合ったバイブルスタディのグループリーダーに SCA 復活について何度か相談しました。そのときに、彼女から敬虔なクリスチャンであったフィンセント・ファン・ゴッホが描いた「夜のカフェテラス」の絵を紹介されました。この絵は建物や道、人々などが真ん中に灯っている明かりに集まっているように描かれています。「この絵は、すべての物がイエス・キリストによって一つになるということを示しているのよ。SCA はこの絵のように桃山学院大学のクリスチャンの学生が集う場所であり、憩いの場になるんじゃないのかな。」と彼女から言われました。

彼女のこの絵の解釈が正しいのかどうかは分かりませんが、SCA が桃山学院大学の学生クリスチャンが一つとなり、他の学生がイエス・キリストに出会える場所となるかもしれないのなら、SCA は必要だと思いました。

復活にあたっては、部長として何をしていいのか全く分からず、松平先生のお力なしには復活は不可能だったと思います。また、当時 1 年生だった部員の子たちは毎週金曜日遅くまで残って、文化サークルのミーティングに参加してくれました。また、何もない状態からスタートしたので、OB・OG の方々からの支援はとても助かりました。

復活してからは、木曜日の昼休みに松平先生と部員たちで一緒にお祈りを捧げたり、バイブルスタディを行ったり、聖歌の練習をしたりしました。少人数でしたが、いろいろなお話を聞けてとても勉強になりました。バイブルランチの時間は SCA の学生だけでなく聖歌隊の学生も参加し、一緒にお菓子を食べたり紅茶を飲んだりしながら、チャプレンからお話を伺ったり、時にはゲストの方が聖書のお話をしてくれたり、有意義に過ごすことができました。

最後に

私が大学院へ入学した年のフレッシャーズウィーク（欧米では新学期はじめの一週間を使って、新入生向けにイベントを行います。その 1 週間をフレッシャーズウィークと言います。）で、たまたまクリスチャンカフェを見つけました。コーヒーを飲みながら聖書のお話をするのです。面白いことに、そこにはクリスチャンの学生だけではなく、無神論者の方

をはじめイスラム教やヒンドゥー教の学生もいました。彼らは冗談を交えながら積極的にイエス・キリストのことを質問していたのです。あまりにも意外な光景だったのでかなり驚いたのですが、とても嬉しかったです。桃山学院大学でも、SCA やバイブルランチなどを通して、多くの学生に神様のことをもっと知ってもらいたいなと思います。

桃学大 SCA(学生キリスト者会)へのお誘いとお願い

桃学大SCAは本学で唯一のキリスト教サークルで、大学創設から存在するという伝統があります。ただ、キリスト教サークルといっても、キリスト教徒でなくても入会できます。というよりも、キリスト教徒の方がレア者です。ミッション系大学ならではの様々なプログラムを知ってみたい人や活動してみたい人にとって、その足がかりとなるサークルだと思います。

さて、SCAでは、バイブル・キャンプへの支援やACUCA（アジアキリスト教大学連盟)、CUAC（聖公会大学連盟）のStudent Campへの参加奨励に加え、様々な活動を予定しています。クリスチャンであってもなくても大丈夫ですので、大学時代の4年間に色々な活動を本学の建学の精神を基盤にしつつ、一緒にやってみましょう！ SCA加入希望者は、チャプレンまでお申し出ください。チャプレン室はキリスト教センター内にあります。また、活動のための募金も受け付けていますので、下記の口座をご参照ください。

三菱東京UFJ銀行（普通）店番458、口座番号0099601

桃山学院大学SCAサークル　代表　平井光基

キリスト教センターからのお知らせ

第 28 回国際ワークキャンプ（インドネシア）　参加者募集

【日程】2014 年 8 月 18 日（月）～ 9 月 4 日（木）18 日間を予定
（※国際情勢等の変化によっては日程変更・短縮・延期・中止の可能性あり）
【説明会日程予定】（以下のいずれかにご参加ください）
日　　程：　4 月 10 日（木）・11 日（金）・14 日（月）・15 日（火）
時　　間：　昼休み（12：40 ～ 13：10）
場　　所：　キリスト教センター集会室（※チャペルではありません）
申込受付：　4 月 14 日（月）～ 18 日（金）（9：00 ～ 17：00）
☆ 説明会にご参加ください。

バイブル・ランチに参加しよう！

学期間中の毎週火曜日、お昼休み（12：40 ～ 13：00）にバイブル・ランチを開いています。昼食を食べながら、聖書やキリスト教のお話をします。メインスピーカーは大学チャプレンですが、ゲストスピーカーがお話しすることもあります。友人を誘って参加してください。場所は、キリスト教センター集会室です。お菓子や飲物もあります！

チャペルの行事に参加してみよう！

チャペルでは、年二回のキリスト教講演会と年 5 回のチャペル・コンサートを開催しています。講演会もコンサートも著名な方を招いていますので、参加しなければもったいない！感情の豊かな若い学生時代に、たくさんの素晴らしいお話しや心温まるような音楽など、いろんなものを吸収しましょう。

チャペルに来よう！

チャペルでは学期間中の毎週、月曜日と金曜日に礼拝を行っています。朝の礼拝は 8 時 50 分から 55 分まで、昼の礼拝は 12 時 40 分から 10 分ほどです。（行事やチャプレンの都合などで中止されることもあります）

チャペルは誰でも大歓迎！

チャペルは、夏は冷房、冬は暖房の効いた心地良いスペースです。休憩や授業の合間など、静かに心を整えるのに最適な場所であるといえるでしょう。チャペルは皆さんのお越しを歓迎します。ただ、雑談・喫煙・飲食は御法度なので、ご注意ください。（ペットボトルの飲水もだめです）

キリスト教センター集会室は利用可能です！

チャペルに隣接しているセンター集会室は、予約すれば使用できます。各種セミナーやゼミの集まり、サークルの活動やパーティーなどに利用できます。飲食可です。

2013年度2月現在　チャペル献金収支明細書（委員会）

【収入の部】

チャペルコンサート献金

月・日	金　額（円）
①2013年　4月20日（土）	31,312
②2013年　5月25日（土）	21,634
③2013年　6月　5日（水）	20,228
④2013年11月　6日（水）	29,961
⑤2013年12月　7日（土）	41,315
計	144,450

結婚記念献金

月・日	献 金 者	金　額（円）
計		0

特別献金および献金箱への献金

月・日	献 金 者	金　額（円）
2013年　5月　4日	立教大学アメリカンフットボール部	5,000
2013年　5月　4日	桃山学院大学アメリカンフットボール部	20,000
2013年　5月10日	2010年度マルチメディア文化実習（担当：佐野先生）実習費の学生預り金の剰余金返金後の残金を献金	3
2013年　7月17日	東京聖テモテ教会オルガニスト一同	5,000
2013年　9月21日	桃山学院大学ラグビー部	10,000
2014年11月　6日	浜野　淳 様　　チャペル献金	4,156
2013年11月30日	杉山 奈弓 様　　逝去者記念礼拝時、献花料として	20,000
2013年12月12日	クリスマス礼拝献金	21,099
計		85,258

普通預金利息

月・日	金　額（円）
2013年8月19日	9
計	9

収入小計	**229,717円**
前年度繰越金	**79,014円**
収入総計	**308,731円**

【支出の部】

2013年　4月18日	残高証明発行手数料	525
計		525

（※）献金送付先・金額・手数料

献 金 送 付 先	金額（円）	手数料
桃山学院東日本大震災支援金（第111回チャペル・コンサート献金）	31,312	
桃山学院東日本大震災支援金（第112回チャペル・コンサート献金）	21,634	
桃山学院東日本大震災支援金（第113回チャペル・コンサート献金）	20,228	
7/23（財）日本国際ギデオン協会（学内で新約聖書無償配付活動継続団体）への献金	10,000	
桃山学院東日本大震災支援金（第114回チャペル・コンサート献金）	29,961	
桃山学院東日本大震災支援金（第115回チャペル・コンサート献金）	41,315	
桃山学院東日本大震災支援金（クリスマス礼拝献金）	21,099	
計		175,549

支出総計	**176,074円**
通帳残高	**132,657円**

桑 ── 偶像にも信仰の力の譬えにも

金城盛紀（本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授）

聖書に出てくる桑は、クワ科クワ属のクロミグワ（Black Mulberry, Sycamine、*Morus nigra*）で、高さ10ぐらいになる落葉樹。原産地はペルシアとされ、パレスチナでは果樹として栽培された。養蚕が導入されてから葉は蚕の飼料にもなったが、蚕には日本で養蚕用として親しまれてきたマグワ（White Mulberry, *M.alba*）のほうが適する。新共同訳聖書に「桑」と訳出されている木については、そのすべてが同定されているとは思えない。つづいて引用されるイザヤ書9章10節の「桑の木」は「いちじく桑」説が圧倒しているようで、「聖書の花園」27（2013年春）でもそのように扱っている。

「れんがが崩れるなら、切り石で家を築き
桑の木が倒されるなら、杉を代わりにしよう。」
（イザヤ書9：9）

半世紀近く繁栄してきたイスラエルは傲慢の心を改めようとしない。これに対する主の怒りは裁きとなってもたらされるという。それでも、人々の驕る心は変わらない。災難に遭って、建造物が破壊されたら復興してよりよきものにするとうそぶく。れんがが崩れるならより高価で強い切り石で、そして桑材の建物が倒れたらよりすぐれた杉（レバノン杉のこと）で再建すればよい。この尊大な自信過剰はさらなる災難を招くだけである―「主の怒りはやまず御手は伸ばされたままである（同11節）」。伸ばされている主の御手は罰する手である。

なお、「桑の木」を文語訳・口語訳ともに「くわの木」としているが、欽定訳やNRSVは「sycamoresいちじく桑」とし、「figtreesイチジクの木」とする英語の聖書や注釈書もある。

偶像の用材にも

献げ物にする桑の木、えり抜きの
朽ちない木を巧みな職人は捜し出し、
像を造り、据え付ける。
（イザヤ書40：20）

最高の技術を身につけた職人が「えり抜きの朽ちない木」を用いるが，桑の木はその代表格であろうか。原文のこの行は難解で有名らしく、欽定訳をはじめNIVやRSVでは前半は省略されるから「桑の木」も言及されない。しかし、NETやRSVの改訂版NRSV（新アメリカ標準訳）は「桑の木」と訳出している。

いかに熟達した職人が最適の用材で造って倒れないように据え付けて拝んでも、偶像は物でしかない。この被造物の加工品は創造主である唯一の神と対比され、否定される。偶像製作と崇拝はイザヤ書44：9－20でも痛烈に嘲られ非難されている。

キリスト教の伝統で、基本的倫理規範の総合とみなされてきたモーセの十戒の第二の戒めは「あなたはいかなる像も造ってはならない」（出エジプト記 20：4、申命記 5：8）となっている。新約聖書では偶像を物から精神的な領域にまで広げている。パウロは「貪欲は偶像礼拝にほかならない」と記している（コロサイの信徒への手紙 3：5）。*More Money Than God*（神よりお金）と題したウォール街の暴走を述べた本がアメリカで出たが、「神と富とに仕えることはできない」（マタイ 6：24）という戒めはどうなっているのだろう。ドル紙幣の裏には IN GOD WE TRUST（我々は神を信じる）と印字されている。いかに理解すべきか。

律法の中でどの掟が最も重要か、という問いにイエスの答えは高次の積極的行いを指し示している―「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」そして、「隣人を自分のように愛しなさい。」（マタイ 22：37－39）

そしてぶどうと桑の赤い汁を
象たちに見せて、戦いに向かわせた。
（マカバイ記一 6：34）

ベトザカリアの戦いで、優位なシリア軍は象を興奮させて戦わすために桑の実の赤い汁も利用した。旧約聖書続編のマカバイ記に出る桑は「桑」と特定して問題はないようである。

信仰の力の譬えにも

主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」
（ルカ 17：6）

信仰の偉大さを説いている。ここでは、欽定訳をはじめ NRSV や岩波版に至るまで「桑の木（sycamine, mulberry）」と訳されている。使徒たちは「信仰を増してください（同 5 節）」と言って信仰を持っていることを前提にしてその増大を願う。しかし主が問題にしているのはその有無である。全能な神に不可能なことはなく、その神に対する信仰によって、不可能と思われることも可能になる。桑の根は深く伸びるとみなされていたから、そのような木でも自らを海に移して根を下ろすという、常識ではとうてい考えられない不可能なことを譬えとして、人間の常識や思考を超える信仰の力を説いている。マタイでは「桑の木」よりもさらに壮大な「山」が用いられている―「からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じてもそのとおりになる。」（マタイ 17：20）

「SCA 桃祭 2013」

社会学部　3回生　**佃　　昭佳**

2013年の桃祭では、出し物として子ども連れの家族が楽しめるようにという願いから、「スマートボール」を出店することとなった。学生らしく、サークルメンバー自らで1から思考錯誤を繰り返しつつ手作りで2台のスマートボール盤を作り上げた。単色の塗装や、むき出しの釘、輪ゴムで作った発射装置は、まさに手作り感満載の出来となった。今回の文化祭は、あいにく1日目が雨天で中止になったため、土曜日だけの運営となった。今年は前年度と異なり、1回生の岸本くんが新たなSCAのメンバーとなり、5人で運営することができた。本当にうれしいかぎりである。

2日目の朝、私とメンバーのひとりである山道君が買い出しから戻ったとき、衝撃的なことが起きていた。スマートボールの一番大切な引張棒が2本とも真っ二つに折れていたのである。予備として1本作っていたが、その棒も同じように二つに折れていた。桃祭開始から30分くらいたった時である。私は、すぐさま修理に取り掛かった。ビニールテープだけでは頼りなかったため、中に木工用ボンドを含ませ、固定することにした。しかし、時間もなく、簡単な修理だったので、引っ張り棒はビニールテープを中心にグニャグニャと曲がるものとなってしまった。幸先の悪いスタートで不安になり、祈るほかなかった。このように、桃学大キリスト教サークルSCAの模擬店は、不安からくる祈りで始められたと言っても過言ではない。

しかし、模擬店を運営していく中で、折れて良かったのではないかと私は思い始めた。小さな子ども達は、引張棒を力いっぱいに引き、また押し込んだりするのである。想定外である。しかし、棒が曲がるため、子ども達が予想以上に引張棒を押し引きしても弾力がついて棒は壊れることがなかった。また、引張棒としての役目も十二分に発揮していたのだ。今思えば、もし棒が折れていなかったら、子ども達が扱って折るなどして、その破片や、折れた先が目に入りでもしたら考えると、肝が冷えそうになる。そう考えると折れていて本当に良かったと思うのである。

運営中には多くの子ども達が、我々のスマートボールに挑戦していった。中には2回もやってくれる子どもさえいた。ボールが入ったときの喜びの笑顔や、ボールを打つ時の真剣な表情、ボールが入らなかった時の残念そうな顔。年齢によっても、その度合いは様々であった。中には本大学の書道部の人がゲームをやって行かれた。楽しかったのでそのお礼と言って、ゲーム後、手作りの団扇を頂いた。団扇には、スマートボール（表）、一回100円（裏）と毛筆で書かれていた。本当にうれしかった。他人の思いやりや気持ちほどうれしいことはないと改めて感じた。

3年生であるメンバーは、恐らくこれが人生最後の学際運営となるだろう。来年は、就活や国家試験の勉強に追われる日々が続くため、桃祭の運営参加はできないと思っている。そのため、1回生の岸本君だけに、それを託さなければならないのが心配だ。現在の主なSCAメンバーは、岸本君以外、全員3回生だからである。来年、彼を筆頭にSCAは引き継がれることなるだろう。正直言って、我々は殆ど彼に残せるものはない。あるのは、今年作った、スマートボールの台くらいだ。部室も部員もお金もないサークルだが、できれば、2回生、3回生になっても、このサークルを引き継いで、活動してほしいと願っている。

「吉野の日帰り研修で感じたこと」

国際教養学部　1回生　**岸本　　耕**

桃祭の終わった二日後、SCAの日帰り研修として吉野の割り箸製造現場見学に行きました。研修と言っても、大学生協の主催する「吉野日帰り旅行」に便乗させてもらっただけなので昨年の「奈良基督教会日帰り研修」とはかなり趣の違うものになりました。参加者はSCAのメンバーを合わせて16人で、留学生やリピーターもいました。

朝早くから、アンデレ広場の噴水前に集合しバスで出発しました。バス旅行の醍醐味はひとつのグループとしてワイワイと楽しめることかもしれません。車中では、みんなで自己紹介をしたり色々な質問や意見交換をしたりしてアイスブレーク的な交わりを持ちました。

バスに2時間程ゆられてやっとの到着です。11月の吉野はさすがに寒く木枯らしが吹いていました。目の前に広がる大自然の紅葉が非常に美しかったのですが、あまりの寒さにゆっくりと見とれることはできませんでした。さっそく割り箸工場に入って、割り箸作りの工程を見学したのですが、割り箸の材料が余った木片や間引きした木材だと聞いて驚きました。吉野の森林を守るために木と木の間のスペースを空ける必要があるそうで、木々を間引きするそうですが、その時に出た木材を使用するのです。諸外国から輸入されている割り箸の殆んどは、森林全てを伐採して大量生産しているので、完全な環境破壊です。しかし、本学が使用している生協の箸は、自然を守るために間引きされた吉野の森林の材木を有効活用しているのです。これを聞いただけで、この日帰り研修の意味があったと感じました。神様の造った自然を、割り箸を使うことで守っているとも考えることができます。

さて、割り箸作りの工程を一通り見学した後にマイ箸作り体験をしました。割り箸にヤスリをかけて削り、自分の持ちやすい大きさにして、自分の名前を割り箸に入れればマイ箸の完成です。SCAメンバー各々、とても個性的な箸を作成していました。以前から感じていたことですが、SCAメンバーの方々はやはり変わった方々です。

マイ箸作りを終えると、待ちに待った昼食です。何とこの日帰りツアーは600円という格安であるにも関わらず、昼食付なのです。しかも、旅館で食事をいただけるのです。旅館では、吉野製箸工業協同組合会の方々が温かく出迎えてくれました。組合会の方々と昼食を食べながら、自己紹介や意見交換をし、組合会の方々のお話しを聞く機会がありました。そのお話によると、吉野の割り箸作りは吉野杉で樽を作るときに出る廃材がもったいないからという理由で、明治初頭に始められたそうです。現在では、後継者問題や外国製の安い割り箸のせいで、深刻な問題を抱えていると聞きました。

そのような問題を抱えながらも、様々なアイデアを出し合って頑張っている方々の話を聞いていると、SCAのサークル活動も頑張らなくては（勉強も）という気持ちになったのです。日頃、全く気にもとめないような割り箸にも、色々なストーリーがあって存在の意味があるのだなと感じました。吉野はとても学ぶところの多い良い場所で、また来てみたいと思います。SCAの活動も目標やアイデアを持ってやっていければと考えています。そして、是非、新入生がSCAに入部してくれることを願ってやみません。

～ オルガン講習・感想文 ～

「一番楽しく演奏できた発表会」

社会学部　１回生　**稲垣　由樹**

小学６年生の冬、桃山学院大学へ見学に来た時、初めてパイプオルガンの演奏を聴きました。その壮大さと優しい音色を今でも覚えています。私もいつか弾いてみたいという気持ちを抱きました。そして、桃山学院大学に入学し、ある日の授業でチャペルを訪れる機会があり、その時にパイプオルガン講習を知りました。音楽高校へ通っていた私にとって、とても興味深いものでした。この講習はとても人気があり、１回生は抽選で落ちることが多いと聞いていたのですが、諦めきれず申し込みました。受講が決まった時は本当に嬉しかったです。

講習はとても楽しく、講師の松原先生も気さくな方で毎週のレッスンが楽しみでした。パイプオルガンはピアノと違って、足鍵盤のペダルがあり、手の鍵盤も２段に別れていて、タッチや指使いも慣れるまで時間がかかりました。

鍵盤とペダルを合わせて弾くことがとくに難しかったです。曲が弾けるようになった時は嬉しくて何度も何度も弾きました。最後の発表会で弾く曲を先生にいただいた時、楽譜を見てこんな難しい曲私が弾けるのかと不安になりました。発表のギリギリまで苦戦しながら練習に励みました。本番は緊張しましたが、今まで練習してきた成果を発揮できたと思います。また、一番楽しんで演奏できました。

また、小学生などがチャペルへ見学にきた時、松原先生がいない時によく演奏させてもらいました。まだまだ未熟な演奏しかできませんでしたが、それでも聴いて下さった方々から、温かい拍手をいただき、いつも励まされていました。

半年という長いようで短い期間でしたが、他大学ではできない機会を与えてもらって、貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。残りの大学生活でまた色々なことに挑戦したいと思います。松原先生をはじめ、チャプレン、キリスト教センターの皆さんには、大変お世話になりました。ありがとうございました。

「オルガン講習と私の学びの訪れ」

国際教養学部　2回生　**大谷　美里**

最後の演奏会を終えた時、私に学びが訪れました。それは、音楽を通して自分と向き合えたことです。自分がオルガンを弾き終わった時、他の学生の方々の演奏を聴いている時にそう感じました。その中で感じたことを、言葉にしようと思います。

私はいつも忙しい人や努力する人、焦る人、悲しむ人、喜ぶ人、悩む人、混乱する人、幸せを感じている人々に覆われています。人を個体として表しましたが、すべて集めると一人の人となります。そして、その人は他の人とも混じりあい（世間の中でも、チャペルのなかでも）影響しあい、響き合います。

音はそれらを表すことができます。そして、その混ざり合った音色がたとえ、dark でも他の色と混ざり、チャペルの中にまたは、他の物の中で響きます。そして、人の中で動きます。

また、チャペル内の響きはチャペルの外にも少し響きます。それらに心惹かれる人々は足を踏み入れ、響き合いと混じることができます。一番懐部深き存在であるように思います。

そして、それらは今の私にとっても必要で、周りの人々の生きていく手助けにもなるとおもいます。みんな生きていくことに、何かをやり遂げることに精一杯なので、私自身が懐深き人になれるよう努力したいと思いました。

毎週、松原先生に熱心にオルガンの演奏方法を教えていただきました。私は、足と手で奏でることにとても苦戦していたのにもかかわらず熱心に教えてくださった先生にとても感謝しています。そして、パイプオルガンという、創造力豊かな楽器を尊敬します。

「オルガンと過ごした3回生の年」

国際教養学部　3回生　**中井　綾乃**

春学期から12月の発表会までの期間、オルガン講習生として毎週レッスンを続けました。パイプオルガンには以前から興味があり、念願のパイプオルガンを弾くことができるということがとても嬉しかったです。大学でパイプオルガンの演奏を度々聴く機会があったの

ですが、演奏を聴くうちにパイプオルガンの美しい音色に惹かれて、いつしか自分も弾いてみたいと思うようになりました。幸いなことに、大学でオルガン講習があるのを偶然知って、講習に応募しました。桃山学院大学には「こんな素敵なチャペルがあって、それに憧れのパイプオルガンがあって、この大学に通っているのに、講習を受けないだなんて勿体ない」と思いました。

最初の講習は、様々な種類の音の出し方から始まりました。ずっと憧れていたパイプオルガンを弾けるのかと思いながら、本当にワクワクしていたことを覚えています。週に一度のパイプオルガン講習を受け、練習用のパックス・アーレン製のオルガンで、課題曲の練習をしました。私は鍵盤を弾くのが苦手だったのですが、松原先生が丁寧に指導してくださるので本当に助かりました。ピアノを過去に習っていたので、手鍵盤は多少できるのですが、ペダルで音を出すのが難しかったのです。両手両足を使う楽器なので、頭の中がゴチャゴチャになり、足で弾くべき音を右手で弾いたりと、よく混乱していました。でもこれもオルガンならではのことで、毎回の授業が楽しくて仕方がありませんでした。

そして講習の締めくくりである発表会の日はとても緊張しましたが、楽しかったです。他の講習生の演奏が聴けましたし、いい緊張感も味わうことができました。オルガン講習を受けていて、本当に良かったと思います。もし、少しでも興味があるという学生がいるなら、迷うことなく是非受講して欲しいです。経験が全くなくても先生が丁寧に指導してくださいます。大学でのこの機会を逃せば、パイプオルガンを演奏することは中々できません。しかも他大学ではこのような講習はありません。私は来年４年生になるのですが、また受講したいと思っています。約９ヶ月間、松原先生、松平チャプレン、そして影で支えてくださったキリスト教センターの皆様、本当にありがとうございました。

「達成感と肯定的生き方をくれたパイプオルガン」

法学部　３回生　**岡本　道生**

私がオルガン講習を受講したきっかけは、1回生の時からよくチャペルに足を運んでいたことです。そのためチャプレンをはじめ、オルガニストの先生や事務の方々と会う機会が沢山あり、また週２回のチャペルでの礼拝においてパイプオルガンの伴奏で聖歌を歌っていたこともあり、パイプオルガンをとても身近なものと感じていました。普段からチャペルに行くことが多かったので、時々部活の先輩がパイプオルガンの練習をしているところを見かけることがあり、これがオルガン講習の存在を知ることになるのです。

先輩方の発表会で、素晴らしい演奏を聴いたことは忘れられませんでした。その頃からパイプオルガンを弾いてみたいという思いはあったものの、鍵盤楽器とは全く縁のない私ができるわけがないという考えから受講を諦めていました。

しかし３回生になった時、講習の募集を見てどうしようか悩んでいると、オルガンの先生が、初心者でもしっかり練習を重ねれば演奏できること、桃山学院大学のチャペルにあるパイプオルガンに触れる機会は滅多にないこと、そして、こんな体験ができるのは大学生の間だけだと聞かされ、やってみようと決心したのです。初心者である私がどこまで上達できるのか、やれるとこまでやってみようといった期待と不安で複雑な思いでした。

パイプオルガンの音の出る仕組みや歴史を学ぶところから始め、基礎の練習に入っていきました。私が最も戸惑ったのは指使いで、5本の指をうまく使いこなすことができずに悪

戦苦闘しました。しかし、先生による丁寧な説明のおかげで徐々にコツをつかんでいきました。また、オルガンは、足も使って演奏するため、手足を同時に使うことに慣れるまでかなり時間がかかりました。そこも先生の指導で、一度に手足を使わず、段階をふんで練習するように教えを受け、やがて手足を使って演奏できるようになり、様々な曲を練習していくうちに受講を始めた時のような不安がなくなっていきました。

発表会を迎え、指先がふるえるほど緊張しましたが、目立った間違いもなく、無事演奏を終えた時、大きな達成感を感じました。そこから、自分でもやればできる、やってみなければ分からないということを学ぶことができました。

この経験を生かして、これからも様々な物事に対して「できないだろう」ではなく、「できるだろう」といった思いで臨んでいけるように活かしていきたいです。

「パイプオルガンを通しての体験」

経営学部　4回生　**北坂　知沙**

1回生の時から興味があり受講してみたかったパイプオルガン講習に、学生生活最後の年に受講させていただき、私は多くの貴重な体験をさせて貰った。まず初めに珍しいパイプオルガンに触れ、専門の先生から受講料なしでレッスンしていただけること。週1回30分のレッスンは、あっという間で毎週楽しかった。私は小中を通して9年間ピアノを習っていたが、オルガンはピアノと似ている様で似ていない楽器だと感じた。楽譜は読めるが音符の長さを楽譜通りに弾くのが苦手なので、鍵盤から指を離さない限り音が鳴り続けるオルガンの特性に苦労した。又、レッスンが進むと、両手に加えて足鍵盤が出てくる。これは、頭では分かっているつもりでも、手が言う事をきいてくれなかったり、足鍵盤が弾きたい音の隣を弾いていたり、と思い通りにならないことが多かった。しかし、その分1曲弾けた時の達成感は大きかった。

そして、このパイプオルガン講習を通して近所の小学生が大学を見学に来た際や桃山祭のチャペル・コンサートの休憩時間で演奏させていただいたり、日本経済新聞の取材を受けさせていただいいたり、授業内でオルガン伴奏をさせていただいたりと、沢山の貴重な体験をさせて貰った。

最後の発表会では、自分が弾いてみたかったピアノ曲の「きらきら星変奏曲」をオルガン用に編曲してもらい演奏した。本番では皆の緊張感が伝わって来て、自分も緊張し手が震えたが、オルガンならではの音色を変えての演奏で、凄く楽しみながら演奏できた。発表会が近づくにつれてパイプオルガンでの練習時間も増えると家のピアノで練習していても、音が変えられない。鍵盤が一段だけしかない。足鍵盤がない。という風にピアノに物足りなさを感じ、たった9ヶ月のオルガン講習だったが、随分とオルガンの魅力にはまっていたことがわかる。

そして最後になったが、指導して下さった松原先生を始め、チャップレンやキリスト教センターの方にとても感謝している。

† 聖公会とは †

本学の建学の精神は、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）です。キリスト教の教派としては英国教会に属しており、日本での教派名は聖公会です。聖公会は、英国宗教改革から始まり、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、太平洋など世界中の国々に広がり、信徒数７千万人を越えております。このような世界的な組織の中で、日本聖公会は重要な位置を占めています。日本においては約 350 の教会、約５万人の信徒を擁し、キリスト教の宣教活動に加え、さまざまな教育・医療・社会福祉などの事業を全国各地で行っています。

本学の姉妹校としては、立教、立教女学院、聖路加看護、名古屋柳城、平安女学院、プール学院、松蔭女子学院、神戸国際などがあります。聖路加国際病院、聖バルナバ病院もよく知られています。桃山学院大学は、世界に広がる国際的なネットワークの中で、その一員として、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）に基づき、「世界市民の育成」をめざして努力しているのです。

◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第 46 号ができあがり、ご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。また、このチャペル・ニュースを通して、チャペルへの興味を持っていただければと願っております。

（チャプレン　司祭　ヤコブ　松平　功）

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース第 46 号
2014 年 3 月発行
発行所　桃山学院大学キリスト教センター
〒594-1198　大阪府和泉市まなび野１番１号
TEL　0725-54-3131

発行日：2014 年 3 月 20 日

桃山学院の「キリスト教精神」

「自由と愛の精神」

桃山学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉が刻まれています。それはイエスの弟子アンデレがイエスに従ったように、「自由と愛の精神」をもっていきることです。使徒パウロが書いています。「あなた方は、自由を得るために召しだされたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。」（ガラテヤの信徒の手紙５章 13 節）

自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とはひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに仕えあいながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、単にキリスト教の立場だけでなく、すべての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想をめざしてチャレンジし続けていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神」であり、「世界の市民」への道なのです。

桃山学院大学キリスト教センター

〒 594-1198　大阪府和泉市まなび野１番１号
TEL　0725-54-3131
FAX　0725-54-3210